建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

最 優 秀 賞

「 進化する建設現場 」

東海工業専門学校金山校 測量設計科１年

井上 葉月

建設業界は、私たちの暮らしに欠かせない社会インフラを支える重要な産業です。住宅、道路、橋、学校、病院、さらには災害復旧に至るまで、建設業はあらゆる場面で人々の生活を支え、社会の基盤を築いています。しかし、残念ながら一般的には第三次産業よりも大変そうという先行的な思いが根強く、多くの若者がこの業界に魅力を感じづらくなっているのが現実です。少子高齢化が進む中で、担い手不足は深刻化しており、今後の日本社会の持続可能性にも大きな影響を与えかねません。このような現状を踏まえ、私は建設業界のイメージアップに思いを持っています。業界の価値と魅力を社会に正しく伝え、より多くの人に建設業を「お金持ちになれる」「やりがいがある」「未来がある」と感じてもらえるようにすることが、今まさに求められていると感じています。

まず何よりも伝えたいのは、建設業が社会に与えている大きな意義です。建物や道路を作るだけではなく、人々の命を守り、生活を便利にし、地域社会の発展を支えているのがこの仕事です。特に近年では、災害時の迅速な復旧や、老朽化したインフラの更新、地域の再開発など、社会的責任の大きなプロジェクトが増えています。建設業に携わる人々は、目に見える形で社会に貢献しており、その仕事には確かな誇りとやりがいがあります。

また、従来の建設業のイメージを刷新するカギとなるのが「技術革新」です。近年では、ICT 建機、ドローン測量、3D スキャン、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング ）などの先端技術が次々と現場に導入されています。これにより、作業の効率化だけでなく、作業者の安全性や品質の向上にもつながっています。今や建設現場は「汗と根性 、安全第一」だけでなく、「テクノロジー」と「データ」で支えられる知的な現場へと進化しているのです。こうした先端技術に触れられる環境は、理系の若者や技術志向の高い人材にとって非常に魅力的なフィールドになり得ます。

加えて、働き方改革の推進も業界全体で進められています。これまで建設業は長時間労働や休みの少なさなど、厳しい労働環境が課題とされてきましたが、現在は週休 2 日制の導入や現場のデジタル化による業務効率化が進み、労働環境の改善が図られています。
さらに、女性技術者の登用や、高齢者、外国人の受け入れなど、多様な人材が活躍できる環境整備も進行中です。

こうした変化を積極的に社会に発信することで、「建設業＝働きにくい」という固定観念を払拭する必要があります。情報発信の手段として、SNS や映像メディアの活用も非常に効果的です。たとえば、Instagra や YouTube では、建設現場の臨場感ある映像や職人の技術、美しい建造物の完成風景などを発信することで、若者や一般市民に親しみやすく、ポジティブな印象を届けることができます。実際に、こうした取り組みを通じて企業の知名度が上がり、若手の応募が増えている例もあります。今後は、業界全体で「見せる努力」「伝える努力」をさらに強化していく必要があります。

しかし、イメージアップは見かけだけを整えるものではありません。本質的な変化、つまり「現場で働く人の希望を育てること」が何よりも大切です。日々の仕事を通して社会の一部をしているという自信が、一人ひとりの技術者や職人の表情に表れ、言葉に力を持たせます。そしてその姿こそが、最も説得力のある「建設業の魅力」だと思います。

私は、建設業界が今後も進化を続け、持続可能な社会の実現に向けて重要な役割を果たしていくことを確信しています。そして、そのためには次世代の担い手を育てること、社会の理解と尊敬を得ることが不可欠です。だからこそ、業界に携わる私たち一人ひとりが、その魅力や誇りを自ら語り、発信し、伝えていくことが大切だと思います。

建設業は、単なる仕事ではなく、人々の未来を形にする仕事です。その価値を広く伝え、多くの人に「この先この仕事は安定をして、AI に仕事が奪われない」「この仕事に関わりたい」と思ってもらえるよう、私自身も行動していきたいと考えています。

建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

優　秀　賞

「 現代を支えるヒーロー 」

東海工業専門学校金山校 測量設計科１年

外山　充城

私が建設業界で働こうと思ったきっかけは、父が土木施工会社を営んでいることが大きな理由です。
私の父は、若い時に祖父をなくし会社を継ぎ、今まで会社を営んできました。そんな父親を幼い時からみてきた私は、父親を尊敬し、憧れて、父親と同じように3代目として会社を継ぎたいと考えるようになりました。

普段、あまり気にしていないかもしれませんが、私たちの暮らしの中にある建物、道路、橋、水道など、日常の当たり前を支えているのが建設業界です。台風や地震のあと誰よりも早く現場に駆けつけ、街の復旧を進めるのも、建設業界の仕事です。こうした存在は、決して目立つわけではありませんが、社会の基盤を支える縁の下の力持ちとしての仕事がとても魅力的だと考えます。

しかし一方で、建設業界には「きつい・汚い・危険」といった、いわゆる「3K」のイメージがいまだに根強く残っています。実際に、外での仕事で、暑い日や寒い日も関係なく働かなければならず、時間に追われる工期など、過酷な一面があるのも事実です。

しかし、近年では技術革新が進み、働き方改革やデジタル技術の導入により、以前とは大きく様変わりしています。
例えば、ドローンや3D スキャナーを活用した測量、自動化された重機による施工、建設プロジェクトの進行を可視化するBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）といった最先端の技術が、すでに多くの現場で活躍しています。これにより作業の正確性や安全性が向上し、現場で働く人々の負担も大きく軽減されています。

さらに、多様な人材が活躍できる環境づくりも進んでいます。これまで男性中心とされていた建設業界にも、女性の技術者や管理者が増えており、子育て支援や柔軟な勤務体制を整える企業も増加傾向にあります。
また、外国人労働者の受け入れや障がい者雇用にも積極的で、誰もが自分らしく働ける環境が作られつつあります。

建設業の最大の魅力は、「かたちとして残る仕事」であることです。一度完成した建物や道路は、何十年、時には百年にわたって地域に貢献し続けます。自分が携わった橋を毎日渡る人々の姿、自分が建てた学校で子どもたちが学ぶ様子を想像することは大きな誇りとやりがいにつながります。建設業は、単なる“作業”ではなく、“未来を築く仕事”なのです。

また、地域社会への貢献も魅力の一つです。災害時の迅速な対応、地域インフラの整備、公共施設の建設など、建設業は地域の安心・安全に直結する存在だと考えます。まちづくりの最前線で働く建設従事者の姿は、まさに「現代のヒーロー」と言えるでしょう。若い世代にとって、建設業界は「重くて古い」イメージがあるかもしれません。しかし、実際にはクリエイティブで、多様な専門性が求められる高度な産業です。設計から施工、管理、ICT 活用まで、幅広い分野で活躍の場が広がっており、挑戦する価値のある業界です。

私たちが生きるこの社会は、目には見えないたくさんの努力と技術によって支えられています。その最前線に立つ建設業界は、もっと注目され、もっと評価されるべきです。だからこそ、今この時代に、建設業の本当の姿を多くの人に知ってもらい、未来の担い手となる若者たちに希望と誇りを持ってもらうことが、これからの課題だと思います。

建設業は過去と現在、そして未来をつなぐ架け橋だと考えます。変わりゆく時代の中で、人々の暮らしと命を支え続けるこの業界の価値は、これからさらに高まっていくと考えます。そして私たち一人ひとりが、その価値に気づき、敬意を持って接することこそが、建設業界のイメージアップへの第一歩になると考えられます。私も、建設業界で将来働く身として、さらに若い世代に働いてもらうために業界全体の環境がよりよくなってほしいと考えています。